

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

| | | |
|--------|--------------------------|--|
| 建物名称 | 潟東小学校・潟東中学校 | |
| 建設地 | 新潟県新潟市西蒲区三方250 | |
| 用途地域 | 指定なし(市街化調整区域)・防火指定なし | |
| 建物用途 | 学校, | |
| 竣工年 | 2021年3月 竣工 | |
| 敷地面積 | 29,140.37 m ² | |
| 建築面積 | 6,419.05 m ² | |
| 延床面積 | 10,556.98 m ² | |
| 階数 | 地上4F | |
| 構造 | RC造 | |
| 評価の段階 | 実施設計段階評価 | |
| 評価の実施日 | 2019年6月5日 | |

2. CASBEE新潟の評価結果

| | | |
|---|----|--|
| | B+ | $BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{49.8}{49.5} = 1.0$ |
| S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ | | |

3. 新潟市の重点項目の評価

| 重点項目 | 平均スコア | 評価 | 項目 | スコア |
|---|-------|----|-------------------|-----|
| 1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために | 3.4 | | バリアフリー計画 | 3.0 |
| | | | 維持管理 | 4.0 |
| | | | 設備の更新性 | 3.2 |
| 2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために | 3.1 | | 耐震・免震・制震・制振 | 3.0 |
| | | | 信頼性 | 3.2 |
| 3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために | 3.0 | | 雨水排水負荷低減 | 3.0 |
| | | | | |
| 4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために | 3.0 | | 建物外皮の熱負荷抑制 | 3.0 |
| | | | 自然エネルギー利用 | 3.0 |
| | | | | |
| 5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために | 4.0 | | 節水 | 4.0 |
| | | | 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 | 4.0 |
| | | | 部材の再利用可能性向上への取組み | 4.0 |
| 6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために | 1.5 | | 生物環境の保全と創出 | 1.0 |
| | | | 敷地内温熱環境の向上 | 2.0 |
| 7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために | 3.0 | | まちなみ・景観への配慮 | 2.0 |
| | | | 地域性への配慮、快適性の向上 | 4.0 |

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

建物の階高さを3.9m程度確保し、将来的な維持管理性能(長寿命化)に配慮した。建物重要度係数1.25以上の構造計画を行っている。児童のスクールバスの待機場所及び待ち合わせ場所(ピロティーやひろば)の確保及び生徒の通学用自転車置き場の設置も併せて計画した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|----------------|
| 建物名称 | 潟東小学校・潟東中学校 | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 新潟県新潟市西蒲区三方250 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 指定なし(市街化調整区域)・防火指定なし | 平均居住人員 | 421人 |
| 地域区分 | 5地域 | 年間使用時間 | 1,100時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 学校 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2021年3月 竣工 | 評価の実施日 | 2019年6月5日 |
| 敷地面積 | 29,140 m ² | 作成者 | 小嶋順三 |
| 建築面積 | 6,419 m ² | 確認日 | 2019年6月5日 |
| 延床面積 | 10,557 m ² | 確認者 | 松元博文 |



| 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | 2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート | 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) |
|--|--|----------------------|
| <p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> | <p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 96%</p> <p>③上記+②以外の 96%</p> <p>④上記+ 96%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p> | |

| 2-4 中項目の評価(バーチャート) | | |
|--------------------------------------|---|--|
| <p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.9</p> | | |
| <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3</p> | <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.0</p> |
| <p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.0</p> | | |
| <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.7</p> | <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3</p> | <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0</p> |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|--|---|
| <p>総合</p> <p>現在の潟東中学校の校地に潟東小学校の移転による増築計画である。児童はスクールバスによる通学、生徒は自転車通学が主であり、田圃に囲まれ自然豊かな場所である。校地内では、スクールバス用のロータリーや、建築物内に組み込まれた自転車置場を設置し、児童と生徒が出会う「ひろば」を各昇降口前に計画している。また、校舎内では、授業時間が異なるため、生徒は児童の授業への影響が少ない動線計画としている。</p> | | <p>その他</p> <p>既存の「希望橋」を渡り、児童と生徒が出会う「ひろば」を、地域の人々との交流の場としても利用可能な計画とし、学校が地域のひとびとの交流の場となり、地域の行事(かもねぎまつりなど)開催の場となり、児童及</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>学校の教室に冷暖房装置を設置しているが、雨天時にも開ける窓の配慮や、開口部遮音性能T-2のサッシを採用している。同時に冷暖房完備の教室であることから、空気環境に配慮した建材の選定に配慮した。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>将来にわたるサービス性能を維持するため、階高さを3.9mを確保し、天井高さは2.8mを標準としている。構造性能は重要度係数1.25以上とし、内部空間には、避難する階段以外には耐力壁のない空間の多様性への変更可能な計</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>「ひまわり」への校地内歩道を設置し、校地から周囲に囲まれている水路への安全対策(フェンスの設置など)を向上させる計画とした。また、雨天時のスクールバスの待合場所としてのピロティの利用、自転車路を</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>教室には、複層ガラスを採用(南・西面にはLow-e複層ガラス)し省エネルギーに配慮した。外皮部分では特に熱負荷の大きい屋根部分にB-2仕様の発泡ポリスチレンフォーム(t)60を採用している。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ブルー水を消火水として利用可能としている。建築の非構造部分には、集材材・エコクロス等のリサイクル材を使用している。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>以前から学校用の駐車場は校地内と分離した位置にある。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される